

# グランシップ ヴァレンタイン・ライヴ クミコ～愛の讃歌

銀巴里が生んだ“最後の歌姫”が登場



三輪明宏さん、戸川昌子さんなど、数々のスターを輩出した日本初のシャンソン喫茶・銀巴里。ビロードのような優しい闇に包まれた空間に錚々たる作家・作詞家が集い、昭和文化の華を咲かせました。その銀巴里で1982年にプロデビューして以来、90年の閉店まで舞台に立ち続けたシャンソン歌手のクミコさん。銀巴里が生んだ“最後の歌姫”が、グランシップ初の本格的シャンソン・ライヴに登場します。

クミコさんといえば、“聴くものすべてが涙する歌”として脚光を浴びた『わが麗しき恋物語』など、数々ヒット曲を飛ばし、NHK紅白歌合戦にも出場した実力派。今年6月にリリースした、『妻が願った最期の「七日間」』は、半年を過ぎた今もなお話題を集めています。「妻が遺した、夫婦の普通の幸せを願つた一遍の詩を、歌としても残して欲しい」。という男性から届いた一通の手紙をきっかけに制作され、「七日間」の詩

を原案に、「しづおか連詩の会」にも参加する覚和歌子さんが作詞。クミコさんの切なく響く歌声は、当たり前の日常が、実は尊いものであることに気づかせてくれます。

人生を語るシャンソン歌手にとって、多彩な音色で世界観を紡ぐアコーディオンは最良の相棒。今回のライヴでは、アコーディオンの名士、桑山哲也さんが共演し、彩りを添えます。シャンソンの名曲『愛の讃歌』に情をこめて、多彩な表現を加え、胸にしみる響きを届けてくれるでしょう。



アコーディオン 桑山哲也

## グランシップ寄席

### （二遊亭圓歌之介改メ）二遊亭圓歌・柳家三三 一一人会（二游亭圆歌・柳家三三） 二人会（二游亭圆歌・柳家三三）

初めての方も、ツウの方も楽しめる語り口の異なる一人が登場

毎回、様々な切り口で日本の話芸をお楽しみいただいている「グランシップ寄席」。平成の落語ブームを追い風に令和の時代になつても変わぬ笑いをお届けします。今日は、語り口のタイプが異なる落語家が会場を笑いの渦に包みます。

2019年3月に、歌之介改め四代目三遊亭圓歌を襲名した圓歌さんは、「爆笑派」と呼ばれるうちの一人。59年鹿児島県出身。大阪の高校を卒業後、78年に先代の三遊亭圓歌に入門。87年には、先輩18人を抜いて真打に昇進し、入門9年目にして初代・三遊亭歌之介に大抜擢されました。ギャグ満載で爆笑を取りつつ、古典・新作をレパートリーに時事問題、健康関連の話題を取り入れた庶民感覚の新作落語に定評があります。晰み出る情に厚い人柄にも親しみがわきそうです。

一方、柳家三三さんは、伝統的古典落語の名手としても注目を集め、切れのある端正な語り口が印象的。74年、静岡にほど近い神奈川県小田原市出身。93年に柳家小三治に入門。実は、中学校卒業とともに、小三治師匠に入門を願い出たそうですが、「高校くらいは出てきなさい」と諭されたという逸話があるほど、少年時代から大の落語好きだったそう。06年に真打に昇進し、「将来の落語界を背負って立つ逸材」と言われるほど実力のある落語家です。

注目のネタ（演目）は、行ってみたお楽しみ。なぜなら、寄席では季節やその日のお客様の様子、出来事の晰家のネタなどによって、直前に決めることが多いからです。そんな、嘶との一期一会。これもまた、寄席の醍醐味ですね。

## グランシップ寄席～三遊亭圓歌之介改メ三遊亭圓歌・柳家三三

3/14(土) 14:00～ ■6階交流ホール 全席指定／一般3,600円 こども・学生1,000円

友の会先行販売 12/15(日)～21(土) 一般発売 12/22(日)～

出演：三遊亭圓歌之介改メ三遊亭圓歌、柳家三三

### 落語の「マクラ」って？

落語では通常、いきなりネタには入らず、世間話をしたり、ネタに関係のある小話などを話します。これが、「マクラ」。観客の緊張をほぐすとともに、反応を見ながらネタを選ぶ術もあります。この「マクラ」が盛り上がりすぎて、ネタが凝縮されるのも落語あるある。今回、どんな「マクラ」を聞かせてもらえるかにもご注目を。